



TITLE:

西夏語の名詞句構造について

AUTHOR(S):

荒川, 慎太郎

CITATION:

荒川, 慎太郎. 西夏語の名詞句構造について. シナ=チベット系諸言語の文法現象1: 名詞句の構造 2016: 57-72

ISSUE DATE:

2016-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/245154>

RIGHT:

西夏語の名詞句構造について

荒川 慎太郎

0. 西夏語の概要¹

0.1. 西夏語の概要

西夏語²は1038～1227年、中国西北部に存在した西夏国の言語であり、1036年に創製されたといわれる西夏文字資料によってのみ知られる。西夏が滅んだ後も西夏語・西夏文字は使用されていたが、現時点では1502年以降の西夏文字資料は見つかっておらず、その後死語・死文字と化したと考えられている。西夏語はチベット＝ビルマ語派に属し、ギャロン語や四川省西部のいわゆる川西走廊言語との関係も指摘されている。確認される限り、同語派の言語としては地域的に最北限といえる。



左：西夏の領域 右：西夏語と川西走廊言語との位置関係
(図は共に西田 1989a: 15 より)

西夏語は死語であるため、全て文字資料が分析の対象となる。西夏文字資料は、仏典、漢語古典の翻訳、韻書、詩歌、法律集、各種契約文書、題記など多岐に及ぶ。現存する資料のうち9割以上を占めるのが仏典である。本報告では、筆者の

¹ 本節は荒川 (2010a, 2013) 冒頭の「西夏語の概要」の縮約修正版である。

² 簡便な概説は、西田 (1989b, 2012), Gong (2003)などを参照。

有するデータの都合により仏典から多くの例を引くことになる。

西夏文字は1文字がおよそ1語ないし1形態素であり、声調を持つ1音節を表す。全ての例文で西夏文字を示す。

0.2. 西夏語の音韻

西夏語の1音節は、CV(C)/T (T= Tone) の構造を持ち、西夏文字1文字で表される。西夏語の諸韻書は漢語音韻学に倣い、CV(C)/T を C-「声母」と -V(C)/T「韻母」に分けて記述する。声母を「反切上字」、韻母を「反切下字」に分析する。声調、声母、韻母の順に述べる。

まず、西夏語の声調は「平声」と「上声」と漢訳できる、2種類の声調が基本にあったことが確認されている。西夏時代の韻書『文海』では全ての西夏語音節が平声、上声ごとに大分類される。

西夏語韻書は、主に調音部位に基づき、声母を9種類に分類する。それらは、漢語訳すると「重唇音類・軽唇音類・舌頭音類・舌上音類・牙音類・齒頭音類・正齒音類・喉音類・流風音類」のように名称付けられる。西夏語音韻学ではこの分類と順序が厳密に守られる。

一方、西夏語韻母は平声「97 韻」・上声「86 韻」と細分化され、通し番号が付与されていた。声調の対立を除き韻母の形式が同じ韻類、すなわち「通韻」は「105 韻」に分類される。韻母番号と代表字が『文海』冒頭に記載されることから、こうした番号による整理が西夏語音韻学では通用していたことがうかがえる。漢語音韻学同様、「合口韻」（渡り音 -w- を持つ音節）は各韻類に含まれる。したがって、西夏語音節から初頭子音を除いた残りの部分は、105 種類よりもさらに多種であったということになる。

0.3. 本稿における表記

本稿における西夏語推定音は荒川（2014）による。声調は上付き小文字で示す（1 は平声、2 は上声）。声母・韻母表記の一覧は稿末に付す。『夏漢字典』（李編著 1997 他）の項目については適宜「李 3916」のようにコード番号も示す。語レベル以上の例文は通し番号・西夏文・推定音・グロス・訳注を基本とする。名詞・名詞句主要部、または派生接辞など、強調すべき要素には適宜下線を付した。（ ）内に出典文献と登場箇所も示す。この表記はおおむね出典の通りとする。

1. 西夏語名詞句の語順

1.0. 西夏語の語順と句構造

西夏語の基本語順は、SOV「主語・目的語・動詞」、Dem-N-Adj「指示詞・名詞・

形容詞」である。ただし「1, 2 人称代名詞, 複数人称」が主語・目的語となる場合, 人称代名詞独立形ではなく動詞に付加される人称接辞で表されることがある。この場合は一見 SVO, OVS のようにも見える。

名詞は状況に応じて格標識 (CM) をとる。動詞は, 接頭辞 (Pref) (否定・疑問的・完了態などを表わす), 動詞に後置する助動詞 (AV) (継続などの意味を持つ), 接尾辞 (Suf) (主に人称を表す) などが付加される場合がある。

1.1. 名詞句の語順

西夏語では 1 語あるいは 1 形態素が 1 音節である。しかし音形式から名詞・形容詞・動詞などの品詞を決定することはできないため, 従来は厳密な定義づけなく, 慣用的に「名詞・形容詞・動詞」などのカテゴリーが文法の説明に使用されてきた。例えば荒川 (2014: 130) で示したように, 「形容詞」というカテゴリーが必要かどうかは引き続き検討の余地がある。本稿では一般名詞など具体的な対象のあるもの, 抽象名詞, 動詞からの派生名詞, 代名詞, 数詞などを「名詞」として扱う。

名詞 (句) は, 形容詞が後置されるのを基本とする。ここで「基本」と断ったのは, 仏教語彙, 漢語借用語など, 「聖なる」「大きな」のような要素が名詞に前置される場合も多数あるためである。例は後述するが, これらは複合名詞的に扱うのが適当かもしれない。本来は, 𐽀𐽂𐽄²lhe? ²lenq 国+大きな=大国 (金剛 06-5+1) のように, 他のチベット=ビルマ語派同様, N-Adj が基本語順であったと考えられる。なお, 指示代名詞 (Dem)・疑問代名詞 (Q), 数詞 (Num) は名詞に前置される。

名詞修飾節 (AC) は名詞に先行する。関係節を示す要素は特に無い。所有関係は「所有者・属格標識 (Gen)・所有物」のように表される。

名詞と名詞の関係, 名詞と動詞の関係を表す「格」は, 名詞に後置する格標識によって表される場合があるが, 明らかに格関係にありながら標識を欠く場合も多いため, 義務的な要素とは言えない。

以上の状況をスロット式に表記すると以下ようになる。もちろんこれらの全ての要素が表出するような例文は確認できないため, 一部推測によるものであることを断っておく。

| | | | | | | |
|----|-------|-----|-----|---|-----|----|
| AC | N.Gen | Dem | Num | N | Adj | CM |
|----|-------|-----|-----|---|-----|----|

1.2. 本稿の構成

まず 2. で名詞を, 一般名詞, 動詞+派生接辞による名詞, 代名詞, 数詞の順で説明し, 次に 3. で名詞の修飾構造を, 形容詞の説明, 修飾節による表現, 所有表現の順に述べる。

⁶ 設は西夏語でも数少ない「異音同字」で、韻書の別々の場所に存在し、異なる推定音を持つ。李 4456 ²tha, 李 4457 ²lenq。意味は共に「大きい」。前者は漢語の借用、後者は本来の西夏語の語彙であろう。

²si: ²ldeu ²zi: ¹me: ¹po ¹tyen ²ngwu
 具える べき 皆 寂 菩提 である
 具えるべき（こと）は皆寂菩提である（金剛科 176）

2.3.1. 人称代名詞

| 人稱 | 單數一般 | 單數敬稱 | 複數 | 複數（包括／除外） |
|----|--------------------|--------------------|--------------------------------------|---|
| 1 | 𪛗 ² nga | 𪛗 ² mo: | 𪛗𪛗 ² nga ² ni: | 𪛗𪛗 ² ga ² mi:（包括） 𪛗𪛗 ² gi: ² mi:（除外） |
| 2 | 𪛗 ² na: | 𪛗 ² ni: | 𪛗𪛗 ² ni: ² ni: | _____ |

自らと他を分別する（金剛頌 093-3）

⁹ 李 3207 には、皇帝の自尊「朕」として 𠄎²be: が挙げられるが、ここでは一人称代名詞には含めない。

A 𐰽¹tha: : 名詞, 「〜と」, 「〜に随い」, 「〜により」, 「〜を以て」, 「〜よりも」

B 𐰽²tha: : 「〜の, 〜を」, 「〜の上」, 「〜の間」, 「〜の所」, 「〜の中」

いくつか例文を示す。□は遠称代名詞, 下線 は後続する要素である。

A 𐰽¹tha: と後続要素の用例

名詞 (名詞句)

- (03) 𐰽 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾
¹sha: ²wi ²tha ²wi ²u ²o ¹ti:q ¹kyuq 𐰽¹tha: ²wi ²u
 舎衛 大城 CM 入る 食べ物 求める Dem 城 CM (金剛 07-4)
 舎衛大城に入って食べ物を求め, 𐰽¹tha:城内にて… (金剛 07-4)

- (04) 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾
²cha: ¹wi ¹zi:q ²li: ²cha: ²je: ¹zi:q ¹menq ¹nyl ¹e: ²le: 𐰽¹tha: ¹nyl ²rer ¹e: ²do ¹tshweu
 徳 生む童子 徳 有する童女 二 CM 見る Dem 足 CM 礼拝する
 徳を生む童子, 徳を有する童女二人を見て, 𐰽¹tha:二つの足を礼拝し… (華嚴 77, 001-6)

例文 (04) は指示代名詞と数詞, 名詞の語順を考える上でも貴重な例文と言える。

𐰽¹byu 「〜に随い」

- (05) 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾
²to ²ne: ²lu ¹jyIr 𐰽¹tha: ¹byu ¹ni: ¹phI:
 悉く 王 座 捨てる Dem CM 家 捨てる
 悉く王座を捨て 𐰽¹tha:に随って (=そして) 家を捨てる (=出家する)。
 (法華 1, 036-1~2)

B 𐰽²tha: と後続要素の用例

𐰽¹e: 「〜の, 〜を (〜に)」 (𐰽¹e: は出現環境により, 属格 (Gen), 対格 (Acc), 与格など複数の機能を持つ)

- (06) 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾 𐰽𐰾
²no ²ryeqr ¹ny'e: ¹ku 𐰽²tha: ¹e: ²cha: ¹o"
 安樂 住する 即ち Dem Gen 功德
 安樂に住すれば即ち 𐰽²tha:功德 (は) (法華 5, 61-1)

- 動詞接頭辞と動词语幹の間に挿入される場合は、疑問文・否定文で確認できる。

𪔐¹leu「一」, 𪔑¹nyl¹「二」, 𪔒¹soq¹「三」, 𪔓¹ldylr¹「四」, 𪔔¹ngwl¹「五」, 𪔕¹cheu¹「六」, 𪔖¹sha:q¹「七」, 𪔗¹a:r¹「八」, 𪔘¹gwyl¹「九」, 𪔙²aq²「十」

𪛗𪛗 ¹sha: ²ryeqr' 十方の (金剛 05-4)

圓 飢 翁 張 處 從 陶 彭 陶¹ a:r² i:r¹ ldyIr¹ tuq² khI: ² ri:r¹ no¹ eu: ¹ thon 八百四千萬億那
 由他 (金剛 46-4)

(13) 襪 𧄞 𧄟 𧄠 𧄡 𧄢 𧄣

¹tsyer ²lyu ¹eu: ¹no''²phwya' ¹leu ²tseu

法（を説く）集会の因縁（という）分 第一（金剛 06-6）

𦉳𦉳 ¹aʔ she: 一順 (金剛科 183) 𦉳𦉳 ¹aʔ jo:n 一遍 (金剛纂 05-5)

𐄢𐄣𐄤𐄥𐄦 ¹a? ²khI: ¹gwyI' ¹tuq 一万九千… (金剛纂 40-2)

辭 ¹phyon 白い (金剛 03-3), 𪛗 ¹ne: 赤い (金剛 03-4), 𪛗 ²ngwIr 青い (金剛 03-2)

¹⁰ 𪛗¹ji:q¹ はあるいは漢字「十」の借用形であろうか。字形は明らかに𪛗¹sha: からの派生形である。西田 (1989b: 413) では「日付などで同じように使われている」とされる。

¹¹ 西田(2005注24)では「垓」𡗗²myeqr²が確認されている。字形を見ると「億」の派生形である。『同音』では「族姓」とされる(李4904)。

¹² 西田 (1989b: 413) 「一人, 一滴」, 李 5981 「一尺, 一卷」など。一方『金剛經』集では𑖀𑖦𑖪𑖫 ¹leu ²dzwo: 一人(集 40-3) のように通常の数詞が使われることがある。

- (14) 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺
 ¹lo: ¹ri:r ²ryeqr ¹ll:
 福 得る 多い なり
 福を得る（こと）は多い（金剛 59-1）

『金剛經』では「大きい」が頻出するが、前述のように、名詞に前置される場合も多い。

𐰽𐰺 𐰽𐰺 ²tha ²wi 大城（金剛 07-4） 𐰽𐰺 𐰽𐰺 ²lhe? ²lenq 大国（金剛 06-5+1）

一方、「諸～」は名詞に前置される修飾要素である。

𐰽𐰺 𐰽𐰺 ¹ryur ¹'e: 諸相（金剛 14-4）

複数の形容詞が名詞を修飾する場合など、形容詞は名詞に前置される。

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 ¹se: ²miq ²cyir ²wa 細い，末の方便（金剛科 262）

仏典においてはこうした例もまれではなく、修飾構造として述べることもできよう。被修飾部を□で表す。

- (15) 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 □
 ²nIr ¹kyuq ¹byu ¹kyiq ²ja:
 黄色い 求め 随う 金剛
 黄色い，求めに随う金剛（金剛 03-3）

- (16) 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 □
 ²zi: ²phyu ²phyu ²tseu ¹zyIr ¹dyu ¹tsyer
 最 上 上 第 稀 有 法
 最上，第一の（上+第）稀有なる法（金剛 30-4）

最上級「最も」𐰽𐰺 ²zi: も頻出する。文の述部となる例で示せば次のようなものがある。

- (17) 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺
 ²tha ²syen ²mo ¹ny'i: ¹lo: ²zi: ¹na
 大 聖 牟尼 福 最も 深い
 大聖（釈迦）牟尼の福は最も深い（金剛纂 30-1）

仏典では2音節語「一切の～」という表現が頻出する。修飾する名詞に後置される。

𑖦𑖦𑖦 ¹tsyer ²ngo:r ²ngo:r 法一切 (金剛 52-5)

3.2. 名詞の修飾構造

次に修飾節について述べる。修飾節と名詞が格関係にあるものを「ウチの関係」、ないものを「ソトの関係」としてそれぞれの例を挙げる。被修飾部を□で表す。

ウチの関係

- (18) 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 □
²nga ²rI:r ¹tshe: ¹tsyer
 私 Pref 説く 法
 私が説いた法 (金剛 17-5)

- (19) 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 □
²phyu ²tseu ²kyeq ²ka ¹a? ¹lo ¹han
 上 第 欲 離れる 阿羅漢
 第一の、欲を離れた阿羅漢 (金剛 24-4)

ソトの関係

- (20) □ 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦
¹a? ¹lo ¹han ²I: ²ldeu ¹zI:r ¹tsyer
 阿羅漢 言う AV 実法
 阿羅漢と言うべき実法 (金剛 23-6)

- (21) 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 𑖦𑖦𑖦 □
²kha:n ²kha: ¹miq ²ngwer ²syu ²lyuq ¹kaq
 恒河 沙 pl ような 身命
 恒河の沙(々)のような身命 (金剛 33-6)

3.3. 所有表現

最後に所有表現について述べる。前述の格標識 𑖦𑖦 ¹e: が名詞と名詞の間に使われると所有関係を示す。

- (22) 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺
²nl: ²mi' ²jyan ²tse: ¹'e: ¹wi:q ¹jl:
 普賢 菩薩 Gen 眷属
 普賢菩薩の眷属 (莫 020)

- (23) 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺
¹ryur ²jyan ²tse: ¹'e: ²gwi:
 諸 菩薩 Gen 言葉
 諸菩薩の言葉 (金剛 08-5)

明らかな所有関係でありながらこの格標識を用いない例も少なくない。

- (24) 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺 𐰇𐰺
²ja:n ²tse: ²ne: ¹wu:'
 菩薩 慈悲
 菩薩の慈悲 (金剛纂 24-3)

4. おわりに

西夏語の名詞句構造や修飾関係は従来あまり記述されていたとはいえない。現在話者のいない言語という制約，現存する資料の内容的な制約はあるものの，今後も用例の収集と分析に努めたい。

略号

AC: 名詞修飾節, Acc: 対格, Adj: 形容詞, AV: 助動詞, CM: 格標識,
 Dem: 指示代名詞, Gem: 属格, N: 名詞, Num: 数詞, O: 目的語, pl: 複数標識,
 Pref: 動詞接頭辞, QP: 疑問接頭辞, Q: 疑問代名詞, S: 主語, Suf: 人称接辞,
 V: 動詞

出典と略称

金剛經：金剛般若波羅密多經
 金剛經頌：金剛般若波羅密多經頌
 (以上，荒川 2014)
 華嚴 77：大方広仏華嚴經卷第七十七 (荒川 2011)
 法華：妙法蓮華經 (西田 2005)
 金剛科：金剛般若波羅密多經頌科文
 金剛經纂：金剛般若波羅密多經纂
 莫：莫高窟西夏文題記 (荒川 2010b)

参考文献

- 荒川慎太郎. 2010a. 「西夏語の格標識について」. 『チベット＝ビルマ系言語の文法現象 1: 格とその周辺』(澤田英夫編). 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. pp. 153–174.
- . 2010b. 「莫高窟・榆林窟・東千仏洞西夏文題記訳注」. 『平成 19～21 年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」』(研究代表者: 荒川慎太郎). pp. 45–106.
- . 2010c. 「西夏語の遠称指示代名詞の使い分けについて」. 『日本言語学会第 141 回大会予稿集』(日本言語学会). pp. 218–223.
- . 2011. 「プリンストン大学所蔵西夏文華嚴經卷七十七訳注」. 『アジア・アフリカ言語文化研究』81. pp. 147–305.
- . 2013. 「西夏語の文について」. 『チベット＝ビルマ系言語の文法現象 2: 述語と発話行為からみた文の下位分類』(澤田英夫編). 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. pp. 151–173.
- . 2014. 『西夏文金剛經の研究』. 松香堂.
- Gong Hwang-Cherng (龔煌城). 2003. “Tangut.” In Graham Thurgood and Randy J. LaPolla (eds.) *The Sino-Tibetan languages*. London and New York: Routledge. pp. 602–620.
- 李範文. 1994. 『宋代西北方音』. 北京: 中国社会科学出版社.
- 李範文編著. 1997. 『夏漢字典』. 北京: 中国社会科学出版社. (増補修正本 2008, 簡明版 2013)
- 聶鴻音. 2013. 「西夏語の名物化後綴 sji^2 と lew^2 」. 『語言研究』第 33 卷 2 期. pp. 119–121.
- 西田龍雄. 1989a. 『西夏文字の話』. 大修館書店.
- . 1989b. 「西夏語」. 亀井孝ほか(編)『言語学大辞典 第 2 巻 世界言語編(中)』. 三省堂. pp. 408–429. {西田 2012 に修訂再録}
- . 2005. 『ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文「妙法蓮華經」写真版(鳩摩羅什訳対照)』. 創価学会.
- . 2012. 『西夏語研究新論』. 松香堂.

付録: 本稿における西夏語音表記

1. 声調 (上付き小文字で示す)

平声 1 上声 2

(声調不明 ? 平声と思われるもの 1? 上声と思われるもの 2?)

2. 声母

重唇音類 p ph b m

軽唇音類 f v w

舌頭音類 t th d n

舌上音類 ty' ty'h dy' ny'

牙音類 k kh g ng

齒頭音類 ts tsh dz s

正齒音類 c ch j ny sh

喉音類 ' h

流風音類 l lh ld z r

(声母不明 ? 推定に何らかの根拠を持つもの 子音表記+ ?)

3. 韻母（西夏語 105 韻の分類と表記を次のようにする。）

| 第 1 環 | | | | 第 2 環 | | | | 第 3 環 | | | |
|-------|-------|-----------|-----|-------|-----------|------|--|-------|-----------|------|--|
| 1 | R. 1 | 1.1=2.1 | u | R. 61 | 1.58=2.51 | uq | | R. 80 | 1.75=2.69 | ur | |
| 2a | R. 2 | 1.2=2.2 | yu | R. 62 | 1.59=2.52 | yuq | | R. 81 | 1.76=2.70 | yr | |
| 2b | R. 3 | 1.3=2.3 | yu | | | | | | | | |
| 3 | R. 4 | 1.4=2.4 | u: | | | | | | | | |
| 1 | R. 5 | 1.5=2.5 | u' | | | | | | | | |
| 2 | R. 6 | 1.6 | yu' | | | | | | | | |
| 3 | R. 7 | 1.7=2.6 | u:' | | | | | | | | |
| 1 | R. 8 | 1.8=2.7 | i | | | | | R. 82 | 1.77=2.71 | ir | |
| 2 | R. 9 | 1.9=2.8 | yi | R. 63 | 1.60=2.53 | yeq | | R. 83 | 1.78 | yr | |
| 3a | R. 10 | 1.10=2.9 | i: | | | | | | | | |
| 3b | R. 11 | 1.11=2.10 | i: | | | | | R. 84 | 1.79=2.72 | i:r | |
| 1 | R. 12 | 1.12=2.11 | i' | | | | | | | | |
| 2 | R. 13 | 1.13 | yi' | | | | | | | | |
| 3 | R. 14 | 1.14=2.12 | i:' | | | | | | | | |
| 1 | R. 15 | 1.15=2.13 | in | R. 64 | 1.61=2.54 | enq | | | | | |
| 2 | R. 16 | 1.16 | yin | R. 65 | 1.62=2.55 | yenq | | | | | |
| 1 | R. 17 | 1.17=2.14 | a | R. 66 | 1.63=2.56 | aq | | R. 85 | 1.80=2.73 | ar | |
| 2 | R. 18 | 1.18=2.15 | ya | | | | | R. 86 | 1.81 | yar | |
| 3a | R. 19 | 1.19=2.16 | a: | R. 67 | 1.64=2.57 | a:q | | R. 87 | 1.82=2.74 | a:r | |
| 3b | R. 20 | 1.20=2.17 | a: | | | | | | | | |
| 4 | R. 21 | 1.21=2.18 | ya: | | | | | | | | |
| 1 | R. 22 | 1.22=2.19 | a' | | | | | R. 88 | 1.83 | ar' | |
| 2 | R. 23 | 2.20 | ya' | | | | | R. 89 | 2.75 | yar' | |
| 3 | R. 24 | 1.23=2.21 | a:' | | | | | | | | |
| 1 | R. 25 | 1.24=2.22 | an | | | | | | | | |
| 2 | R. 26 | 1.25=2.23 | yan | | | | | | | | |
| 3 | R. 27 | 1.26=2.24 | a:n | | | | | | | | |
| 1 | R. 28 | 1.27=2.25 | I | R. 68 | 1.65=2.58 | iq | | R. 90 | 1.84=2.76 | Ir | |
| 2 | R. 29 | 1.28=2.26 | yI | R. 69 | 1.66=2.59 | yiq | | R. 91 | 1.85 | yIr | |
| 3a | R. 30 | 1.29=2.27 | I: | R. 70 | 1.67=2.60 | i:q | | R. 92 | 1.86=2.77 | I:r | |
| 3b | R. 31 | 1.30=2.28 | I: | | | | | | | | |
| 1 | R. 32 | 1.31 | I' | R. 71 | 1.68 | iq' | | | | | |
| 2 | R. 33 | 1.32=2.29 | yI' | | | | | | | | |
| 3 | | | | R. 72 | 1.69=2.61 | i:q' | | | | | |

| | | | | | | | | |
|----|-------|-----------|------|-------|-----------|-------|-----------|----------------|
| 1 | R. 34 | 1.33=2.30 | e | | | R. 93 | 1.87=2.78 | er |
| 2 | R. 35 | 1.34=2.31 | ye | | | R. 94 | 1.88=2.79 | yer |
| 3a | R. 36 | 1.35=2.32 | e: | | | | | |
| 3b | R. 37 | 1.36=2.33 | e: | | | | | |
| 1 | R. 38 | 1.37=2.34 | e' | | | | | |
| 2 | R. 39 | 1.38 | ye' | | | | | |
| 3a | R. 40 | 1.39=2.35 | e:' | | | | | |
| 3b | R. 41 | 1.40 | e:' | | | | | |
| 1 | R. 42 | 1.41=2.36 | en | | | | | |
| 2 | R. 43 | 1.42=2.37 | yen | | | | | |
| 1 | R. 44 | 1.43=2.38 | eu | | | | | |
| 2 | R. 45 | 1.44=2.39 | yeu | | | | | |
| 3a | R. 46 | 1.45=2.40 | eu: | | | | | |
| 3b | R. 47 | 1.46 | eu: | | | | | |
| 1 | R. 48 | 2.41 | eu' | | | | | |
| 2 | R. 49 | 1.47 | yeu' | | | | | |
| 1a | R. 50 | 1.48 | o | R. 73 | 1.70=2.62 | oq | R. 95 | 1.89=2.80 or |
| 1b | R. 51 | 1.49=2.42 | o | | | | | |
| 2 | R. 52 | 1.50=2.43 | yo | | | | R. 96 | 1.90=2.81 yor |
| 3 | R. 53 | 1.51=2.44 | o | | | | R. 97 | 1.91=2.82 o:r |
| 1 | R. 54 | 1.52=2.45 | o' | | | | | |
| 2 | R. 55 | 1.53=2.46 | yo' | | | | | |
| 1 | R. 56 | 1.54=2.47 | on | R. 74 | 1.71=2.63 | onq | | |
| 2 | R. 57 | 1.55=2.48 | yon | R. 75 | 1.72=2.64 | yonq | | |
| 3 | R. 58 | 1.56=2.49 | o:n | | | | | |
| 1 | R. 59 | 1.57 | o'' | | | | | |
| 2 | R. 60 | 2.50 | yo'' | | | | | |
| 1 | | | | | | | R. 98 | 2.83 wor |
| 2 | | | | | | | R. 99 | 2.84 ywor |
| 1 | | | | R. 76 | 2.65 | eqr | | |
| 2 | | | | R. 77 | 1.73=2.66 | yeqr | | |
| 1 | | | | R. 78 | 2.67 | eqr' | | |
| 2 | | | | R. 79 | 1.74=2.68 | yeqr' | | |
| | | | | | | | R.100 | 1.92=2.85 ylr |
| | | | | | | | R.101 | 1.93=2.86 yer' |
| | | | | R.102 | 1.94 | woqr | | |
| | R.103 | 1.95 | ya:n | | | | | |
| | R.104 | 1.96 | un | | | | | |
| | R.105 | 1.97 | ua | | | | | |